

広域人事だより

<第15号>

～②広域異動終了者編～

(令和5年11月24日発行 北海道教育庁教職員局教職員課人事制度・免許係)

広域人事（離島人事交流を含む）での異動を終了し、現在異動元の管内で活躍されている先生方から近況報告をいただいたので、ご紹介させていただきます。

「広域人事だより」＜②広域人事異動終了者＞ 執筆協力者

No	管内名	市町村名	学校名	氏 名	広域人事異動先管内・所属等				広域人事 終了年月日
					区分	管内名	市町村名	学校名	
1	空知	長沼町	長沼中	横井 宏恵	中堅	後志	黒松内町	白井川中	R5.3.31
2	空知	砂川市	砂川中	中松 あづさ	離島 (中堅)	宗谷	利尻富士町	鷺泊中	R5.3.31
3	石狩	千歳市	桜木小	戸来 友美	中堅	日高	日高町	厚賀小	R2.3.31
4	後志	小樽市	銭函小	大村 香織	離島 (中堅)	檜山	奥尻町	奥尻小	R5.3.31

(広域人事終了者)

氏名	横井 宏恵	現任校	長沼町立長沼中学校 (空知)	前任校	黒松内町立白井川中学校 (後志)
----	-------	-----	----------------	-----	------------------

○現任校での勤務状況

今年度は、1年B組34名の担任をしています。前任校では2年間、女子2名の担任をしていたので、そのギャップに最初は戸惑いました。しかし、現任校は経験豊かな先生方が多く、分からなかったり、困ったりしたときには周りの先生方から助言をいただくことができ、個性豊かな生徒たちと日々向き合うことができています。

教科指導では、1年生2学級の国語と社会を担当しています。前任校は極小規模校で、1年生3人、2年生1人、3年生2人でしたので、個人の特性に合わせた進め方ができました。反面、対話を通して考えを深めることや、練り上げるといったことが難しい場面もありました。現任校では、多様な意見を出し合いながら考え方を広げることができる一方、個に合わせた指導の難しさに直面しているところです。

校務分掌は教務部の研修2、部活動はバドミントン部を担当しています。



○広域人事により経験できたこと

小規模校ならではの個に応じた教育を経験できたことが大きいです。中学校の3年間で、生徒たちが身体的・精神的ともに大きく成長していく姿を間近で見守ることができました。

小規模校ゆえの大変さもありましたが、全校生徒で物事を考えたり、地域のみなさんに協力してもらいながら授業や行事を進めたりと、地域と一体となって教育を進めていくことを経験できました。

また、黒松内町の白井川地区は、中学校のすぐ近くに小学校があり、運動会や学芸会・学校祭を合同で行うなど、小中での交流が盛んです。地域の方々も行事の運営に積極的に参加してくださり、地域をあげて学校運営に協力してくださっているのを実感することができました。



○広域人事期間中に苦労したこと

白井川中学校に勤務していた3年間で丁度コロナ禍の自粛期間と重なってしまったため、行事の中止や規模縮小が相次いでしまいました。学校行事に地域の方が参加するだけでなく、地域の行事に生徒たちが主体的に参加していく……という姿を見ることができませんでした。これが一番心残りです。

最後、空知に戻るときの引っ越しが大変でした。コロナ禍で、人手もトラックも不足していて、黒松内まで来て下さる業者が限られていて、赴任したときの倍以上の料金がかかりました。業者を探す間は、4月1日に赴任できないのではないかという恐怖を感じました。

○広域人事のやりがいや魅力を伝えるメッセージ

今まで経験したことのない環境で、新しいことに挑戦させていただき、自分の視野を広げる良い機会になりました。地域の特性や学校規模によって、同じことを学ぶにしても方法が変わってくることを実感する3年間でした。後志で学んだことを、空知の生徒たちに還元していきたいと考えています。



(広域人事終了者)

氏名	中松 あづさ	現任教	砂川市立砂川中学校(空知)	前任校	利尻富士町立鷺泊中学校(宗谷)
----	--------	-----	---------------	-----	-----------------

○現任教での勤務状況

本校は、令和5年度に砂川市立石山中学校と統合し、砂川市内全域が通学区域となり、3台のスクールバスが遠距離地域の子どもたちを送迎しています。生徒数が335名の大規模校となっています。また、令和8年度からは、義務教育学校への移行が決まっていて、来年度から校舎の新築工事も始まります。部活動も盛んで全国大会に出場する運動部もあります。こちらへ来る前の3年間は利尻島の生徒数50名ほどの学校でしたので、赴任当時は、生徒の多さに瞬きができないほどでした。私は特別支援学級の担任をしていますが、特別支援学級は5学級(知的2・情緒・難聴・言語)設置されていて、生徒数も多く個別指導や協力学級での全体指導など、毎日の流れについていくのがやっとでした。



○広域人事により経験できたこと

学校では、全学年の美術科と自閉・情緒学級の担任をしました。美術科では全学年で四季を感じる絵手紙を制作し学校祭の展示に使ったり、卒業の記念として冊子にまとめたりしました。支援学級の担任としては、担当生徒の実態に合わせて、集団の中でどのようなサポートができるかを考えたり、3年間を通して生徒自身が自分の障がいを理解し、進路について自分で考えたりできるように、試行錯誤したのを思い出します。私自身も生徒と一緒に悩み、保護者の思いに寄り添いながら、3年間を過ごしました。結果として、親元を離れ普通高校での寮生活を選んだことが、本人にとってどのような成長をもたらすのかはまだわかりませんが、一人の生徒の大事な3年間にじっくり関われたことは、私にとって大変貴重な経験だったことは言うまでもありません。また、利尻島では、利尻ブランドとしても有名な利尻昆布を干すお手伝いをさせていただきました。養殖昆布や天然昆布など、多くの人の手が必要な仕事です。早朝3時半くらいから5時くらいまで干し場で昆布を並べます。初夏の太陽をいっぱい浴びておいしい利尻昆布が出来上がります。それから憧れの利尻山に20回ほど登りました。雪解けから初雪まで、利尻山の四季を満喫できて幸せです。心残りは利尻ブルーの海を体感していないことです。SUP をしてみたかったです。



○広域人事期間中に苦労したこと

赴任した頃は、コロナ感染の対応で学校が閉鎖され、全校生徒と顔を合わせる事が難しい時期でした。しかし、生徒たちの学びを止めないようにと、生徒全員にタブレットが配布されオンラインをいち早く取り入れた授業が展開されました。しかし、それに関わるICTの研修が多かったことは、私にとってはなかなか大変だったです。それから、ある程度覚悟はしていましたが、冬の厳しさは予想以上でした。猛吹雪の日は、命の危険を感じるほどです。道路が封鎖され、強風で一歩も外に出られませんし、フェリーの欠航が続くと店には食材がなくなります。その時は、冷凍ストッカーが必要だと強く感じました。

○広域人事のやりがいや魅力を伝えるメッセージ

仕事をする上で環境は大変重要です。今自分が置かれている環境と全く違う条件の環境に身を置くことは、発想の転換や新しいアイデアの構築に必要だと考えます。どの地域に行っても子どもたちはキラキラして可愛い存在です。そんな子どもたちと過ごしながらか、今までとは違う視点で物事を見られるようになったら、この3年間は充実したものになると感じました。

(広域人事終了者)

氏名	戸来 友美	現任校	千歳市立桜木小学校 (石狩)	前任校	日高町立厚賀小学校 (日高)
----	-------	-----	----------------	-----	----------------

○現任校での勤務状況

日高町での3年の勤務を終えて、千歳で4年目になりました。

○広域人事により経験できたこと

私は、海のない地域で生まれ育ち、勤務をしていたので、海沿いの町の生活の様子や町の行事がとても温かく感じました。また、胆振東部地震を日高で経験し、避難所で少し生活したときに、日高の人の温かさに触れました。

小規模の学校を経験できたことは大きな財産です。地域的にアイヌ文化について学ぶ機会もあり、平取町立二風谷アイヌ文化博物館の学芸員の方に学校で授業をしていただきました。



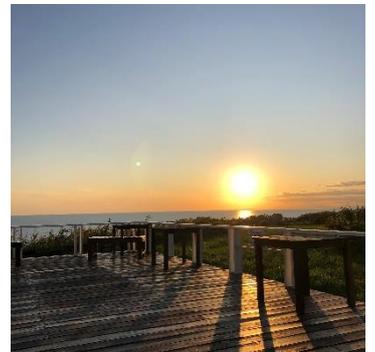
○広域人事期間中に苦労したこと

苦労はどこにでもあるので、広域人事だから苦労したということはありません。

○広域人事のやりがいや魅力を伝えるメッセージ

やりがいは人それぞれだと思うので、伝えることは難しいですが、私が言える広域人事のよさは、「選択できる」ことだと思います。教員になったら、「置かれた場所で咲く」ことを求められます。しかし、広域人事は、受け入れ先の希望する人材と自分を比較しながら、「種をまく場所を決める」ことを異動者が選択できます。チャレンジしたい何かがある人にとって、大きな利点だと思います。

私は、空知、石狩、日高と管内を異動しましたが、それぞれの地域で文化が違い戸惑うことがありました。他の地域を知ることで、その違いに右往左往せず、むしろ違いを楽しみながら教育の目標に向かうように視野が広がる機会になるのではないかと思います。



(広域人事終了者)

氏名	大村 香織	現任教	小樽市立銭函小学校(後志)	前任校	奥尻町立奥尻小学校(檜山)
----	-------	-----	---------------	-----	---------------

○現任教での勤務状況

銭函小学校は現在、教職員数 35 名、児童数 289 名、17 学級(特別支援学級 5 学級を含む)で、小樽市の中で最も札幌に近い東側にあります。2 階の教室の窓からは国道 5 号線、その向こうに銭函の住宅地、そして日本海を見ることができます。私は現在、4~6 年(近隣校の桂岡小学校の 6 年生を含む)の理科専科の教員として勤務しています。理科専科として児童の前に立っていて、離島での勤務が生かされることが何回もありました。隣の学校への移動があるので、慌ただしいときもありますが、離島に勤務した経験を更に生かして行きたいと思います。

○広域人事により経験できたこと

全校児童 40 名余り、5、6 年の複式学級も経験しました。保護者だけでなく地域の方々が学校教育を支えてくれ、島の子どもたちに少しでも多くの、そして豊かな経験を積ませようと懸命に活動されていました。学校から少し歩けば、豊かな美しい海が広がり、「美しい崖」「美しい形の岩」がありました。3 年間、毎年 6 年生の「地学」分野を担当させて頂き、子どもたちと奥尻の土地の成り立ちを探りました。この単元を深く学ぶ授業をさせていただいた、当時の奥尻小学校職員の皆様には感謝しかありません。少人数だからこそ可能になる、子ども一人一人に合わせた学習の進め方を経験したのも大きかったです。1 人 1 台端末を通して、各家庭から学級全員参加しての学級会や、兵庫県の淡路島の小学校との交流、micro:bit を使ったプログラミング学習なども経験できて良かったと思います。



職員が道内各地から集まっていて、色々な方法や情報を見聞きできたのもとても良かったです。

○広域人事期間中に苦労したこと

なんとと言っても、奥尻には「コロナと共に上陸し、コロナと共に去る」的なものになってしまったのが、本当に残念です。なかなか、町の行事が再開されなかったのも、町民の皆さんにはいつまでも「よそ者」的な存在だったのではないかと思います。町全体が「何らかのつながりがある知り合い」といった雰囲気にはじめは戸惑いました。(話をすれば、どの方も親切ですぐに打ち解けるのですが……。)



苦労したと思う事は、コロナに関連することがほとんどでしたので、もしかしたら、あのような事態にはもうならないかも知れません。強いて言えば生活面では、冬は海が荒れやすく、島唯一のフェリーが止まると島内には品物が一切入ってこないのも、波の状況を見るアプリを携帯電話に入れて準備しなければならないことと、場所によっては雪が結構積もり、毎日の雪かきが大変でした。また、町立の診療所があるので、風邪などには対応可能ですが、整形外科等専門の医療機関にかかりたいときは島外に出る必要がありました。また、診療所は土曜日は休診なので、平日の午後に診療しなければならないのが不便でした。

○広域人事のやりがいや魅力を伝えるメッセージ

奥尻町への異動を希望したきっかけは、TV で南西沖地震復興イベントであった「ムーンライトマラソン」を支える若者のドキュメンタリーを見たことでした。奥尻の景色や奥尻への熱い思いに触れ、奥尻が憧れの地となったのです。希望が叶って異動し、勤務した 3 年間は、新たな刺激で一杯でした。何事にも一生懸命に取り組む子どもたちと多方面にわたって支えてくれる地域の方たち、どこまでも美しい風景、何度もロードバイクで島一周をして、豊かな自然に魅了されました。熊の心配なく 1 人でも安心して 65 km ほどを走ることができるのは、奥尻だけではないでしょうか。(奥尻の最大の野生動物はタヌキです。)そして家族ではまった、美しい奥尻の海です釣りを。(周りの方が親切で、手取り足取り教えてくれました。)

単身で奥尻に行きましたが、家族は何度も奥尻に訪れました。仕事の上でも、余暇の過ごし方でも本当に素晴らしいところだと思います。離島での勤務に興味のある方、ぜひ、ご検討ください！